

湯沢CS通信

令和5年8月22日第62号

(発行) 湯沢市教育委員会
学校教育課 CS担当

各校の熟議の様子(その二)

今回は山田小・中学校、湯沢南中学校、雄勝中学校、湯沢東小学校、雄勝小学校の熟議の様子を紹介します。なお、山田小・中学校、湯沢南中学校の会議には日程が重なり参加できませんでしたので、記録を基にした紹介になります。



山田小・中学校

七月五日(水)実施

テーマ

「今、小学生・中学生がやるべきこと、小・中学校合同でやるべきこと」

今回の学校運営協議会は、小・中学校合同で行われました。小・中学校の交流活動として、生徒会・児童会を中心とした小・中合同挨拶運動の実施、中学校主催の夏祭りに小学生を招待すること、小・中合同の防災訓練を行うことが確認されました。また、地域を知る活動を充実させること、小学校の百五十周年事業に向けた連携、山中コーポレーションの共同作業などについても協議がなされました。

湯沢南中学校

七月五日(水)実施

テーマ

「地域行事への生徒の参加について」

「南中パンナコッタ(総合的な学習を進めている商品開発)」は、委員の皆さんの協力で順調に進んでいること、今年は、昨年よりサクランボの収穫量が多いので、例年と違う形での販売を工夫して販売量を増やすことを検討していくことなどが話題になりました。

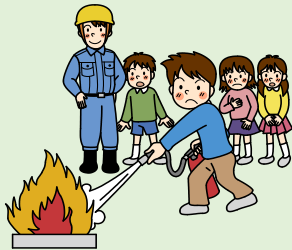
また、七夕や犬っこ祭りへの協力、地域行事である綱引きや運動会への参加、老人福祉施設の敬老会への部活動単位での出演など、中学生の参加があれば地域が盛り上がるという意見も出されました。

雄勝中学校

七月十二日(水)実施

テーマ

「夏季休業中及び二学期以降の地域行事への参加について」



小町まつりや院内银山まつりなどの地域行事、防災教室などの学校行事の成功に向けて、委員が地域の担当者に積極的に働きかけて学校と地域が連携していくことを確認しました。生徒の発信力不足が雄勝中の課題の一つであり、その解決策として、生徒一人一人が「この町をどう変えていきたいか」について考え、それをまとめて雄中祭などの場で地域の人に発信することもできるのではないかという提案がありました。

テーマ

「学校と地域がつながるにはどうしたらよいか」



ワールドカフェ方式で熟議が行われました。テーマに対する各自の考えや解決策などについてメンバーを変えながら四人グループで協議しました。そして、グループ毎に「一番実践したいこと」を全体の前で発表しました。出されたアイデアは次のとおりです。(PTAで熟議を行う、学校・公民館・キッズステーションなどを利用した作品展

示、地域CMづくり、「学校が求めること」と「地域ができること」をつなぐ、東小学びマップづくり)

最後に寺田校長先生がキーワードとして「親ど

うしのつながり」「活性化」「地域を知る」を挙げ、グループで出たアイデアを二期以降に実践していきたいとまとめてくださいました。



前年度の学校運営協議会で委員から先生方の考えも聞きたいという提案があり、それを受けて教員全員参加の熟議を行うことにしたそうです。学校運営協議会の委員や職員の考えを学校運営に生かしていくよい流れができたと思います。出されたアイデアをできるだけ多く実践できることを期待しています。

テーマ

「学校支援の在り方と教育課程(五・六年生のキャリア教育の推進)」「通学路の安全確保について」

五・六年生のキャリア教育の推進に向けて、委員がプロジェクトチームをつくって検討した内容(五年生は職場体験、六年生は商品開発を行うこととその概要など)の報告がありました。教育課程や学習計画の作成、実際の授業に委員が関わっていくことが確認されました。

また、通学路の安全確保については開校以来の懸案事項になっており、その対応策として、のぼり旗を設置して安全を確保する案が示されました。青少年育成市民会議の事業ともタイアップして進めていくことが話し合われました。

湯沢西小学校の実践紹介

湯沢西小学校では六月五日に「読書好きの子どもを育てるために」をテーマに熟議を行いました。その話し合いで「子どもだけでなく大人も読書をする」「身近に本を置く環境をつくる」「興味ある一冊との出会いをつくる」などの意見が出されました。

これを受けて、西小では「夏休み家族で読書キャンペーン」(夏休み前に図書室の本を借りて家族で同じ本を読む。そしてアンケートに答えて、しおりをもらうという企画)を実施しています。

熟議で出たアイデアを実際の企画に反映させ、学校課題の解決に結び付けるというとても参考になる実践です。

